

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019040838		
法人名	株式会社恵み野介護サービス		
事業所名	グループホーム フレンドリイ		
所在地	札幌市西区八軒10条東3丁目1-20		
自己評価作成日	令和 4年 5月23日	評価結果市町村受理日	令和 4年 7月 4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=019040838-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 1ユニットの為職員と入居者の方との交流が密にできており、個々の希望に職員全体で叶うように何度も話し合い実現が出来る様にしています。
- ② 毎年ドライブレクを4月～11月に毎月1回は出かけています、個々に外食の時は食べたい物を選んで召し上がり 職員との会話の中から行きたい所に外出するように計画をしています。
- ③ 毎年恒例の行事にはご家族にも参加して頂き(ここ2年ほどはコロナの為ご家族は参加されていません)BBQ・敬老会・クリスマス会を行い職員からの出し物や社長からのマジックや歌に皆さんやご家族、地域の方々も喜んで頂いています。
- ④ 毎年、年2回の火災害時訓練を行い、年1回の風水害の訓練の時は福井のグループ施設に避難をする想定での訓練も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に位置する一般家屋風の佇まいの2階建て1ユニットの事業所である。町内会や地域住民との関わりが良好であり、感染症対策で事業所行事や避難訓練への参加は見送られてはいるが、町内会総会への出席や可能な活動への参加、運営推進会議への協力が得られている。また、要請を受け内部研修資料の提供を行うなど、事業所資源の還元もなされている。利用者の散歩では自宅の庭の花々や畑を快く見せてくれたりと普段着のつきあいも育まれている。感染状況を見極めながら個別や少人数に分けてのドライブ外出に取り組んでいる。地方の自然豊かな景色を存分に堪能すると共に出先での食事や甘味を味わう事も交えた外出は、利用者の大きな喜びと楽しみになっている。事業所内では体操やレクリエーション、季節行事で職員も利用者と一緒に場を盛り上げ、運営者も積極的に参加し得意事を利用者へ披露し喝采を浴びている。日々の自己決定の場面づくりにより、利用者は希望や願いを表出できており、自由なその人らしい暮らしの実現に至っている。利用者がより良く暮らすための課題を更に焦点化できるようケアプラン導入Eシート活用の検討を進めるなど、ケアの質の向上にも熱心である。工夫を凝らした食事提供や看取り支援への尽力、個別に家族へ発信する事業所便り、内部研修の取り組みも優れている。職員の温かい関わりがアットホームな持ち味となり地域と家族の支援を得ながら利用者の暮らしを豊かに支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの法人理念、基本理念をホーム内の複数個所の見やすい場所に掲示し、個人の社員証にも明記してあり何時でも確認が出来る。毎週月曜の朝の送りに唱和しています。	法人理念と基本理念を標榜し、事業所内要所への掲示や唱和等により意識づけを行っている。5つの基本理念に「あいさつ」「笑顔」「ふれあい」「チームワーク」「感謝」の言葉があり、サービスの質の確保・向上に向けた拠り所としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナで交流等に参加出来ませんでした。その中でも毎月1回町内会の廃品回収や今年から小学校の廃品回収に月1回交流している。	町内会の総会への出席やゴミ拾い、廃品回収に携わるなど、地域の活動や交流に積極的に取り組んでいる。地域住民の事業所AEDの使用や研修資料の提供要請に応じるなど、地域貢献や資源の還元に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナの為、実践的な事は出来なかったが2ヶ月に1度の書面の運営推進会議での研修資料を構成員の方に配布し、後日電話でお話したりご近所の方にも資料が欲しい方にお渡ししている。AEDを町内会の方々にも使って頂く様にしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年からのコロナの為、運営推進会議も書面会議となっており職員間の会議内容をお知らせして後日構成委員の方からのご意見を参考に取り組みを行う様にしています。ご家族にもお便りと一緒に送付しております。	書面開催での会議運営である。運営者の出席の下で事業所の現状や利用者状況、取り組みについて意見交換がなされ、議事録を会議メンバーへ送付し意見を聴取している。全家族に書面会議文書を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の介護保険課の方には分らない事があった時には電話で教えて頂いています。生活保護の利用者については保護課担当の方に区役所で直接お話しして相談しております。	市の担当者とは、運営上の案件や制度について指導や助言を仰ぎ、適切な運営が維持できるよう協力関係を築いている。区の保護課担当者とも同様に、利用者の生活の安定に向け管理者が相談に出向いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は基本的に施錠していない。18時～6時までのあいだのみ施錠を行っておます。定期的に内部研修で身体拘束の研修を行い、職員同士で確認しています。また、グレーゾーンについての話は都度行っている。	身体拘束適正化に係る指針を定め、身体拘束適正化委員会を定期的に開催し、年2回これらに係る内部研修を実施している。身体拘束に関する研修の他に高齢者の虐待防止と課題についても学び、不適切ケア防止の意識を高めている。夜間帯のみ玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員で毎月のミーティングに入居者様の変化を話し合い毎月のケア会議でも話し合い確認をしあっています。虐待防止のみではなく不適切ケアについても確認するようにしています。		

グループホーム フレンドリイ

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後必要とされる方が入居された場合関係機関と協力して対応して行きたい。研修でも学習の機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一度見学に来て頂いてご説明させて頂き納得されたからの入居の申し込みと面談し入居となります入居時に再度契約内容重要事項の説明を行い質問などを受けてからご家族様のご理解を得られるよう努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今は面会がなかなか出来ない状態ですが、施設内に「苦情相談」箱を設置しておりご家族が面会で居室に来られた時に、用紙に書いて入れる事が出来用いています。又年に3～4回お便りを発行する様にしている。	利用者の日常的な要望に実直に対応している。季節柄、散歩の希望が多くその都度職員と出かける機会を持ち楽しんでもらっている。家族とは電話や来訪時等の接する機会や発信文書類で情報提供を行い、意見や要望を出してもらえるようにしている。	家族により知りたい事や気になることの違いがある事から、家族にどのような事を知りたいかの意向を確認することも要望にも叶った情報提供に資すると考えられる。家族アンケートを再開する意向であるので取り組みに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議意見が言えている。意見や提案が話せる機会がある。発言出来ない時は管理者に直接話をすることが出来る。管理者から社長に話してくれています。	運営者は毎月事業所に訪れ個別面談を実施したり、管理者が年2回職員個々に実施する自己評価後に面談を行っている。職員同士の良好な関係や職場の雰囲気づくりが大切にされており、意見が出しやすい話しやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職場環境に気を配り代表への報告もしてくれている。困った事等は相談できる環境です。希望休等はなるべく取れる様に配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月行っているがコロナの為外部研修は参加していない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為西区管理者連絡会議や連絡協議会がされていないが西区管理者連絡会で、研修のZOOMでの紹介があり参加予定だが、まだネットでの整備がされていないので保留である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に御家族から話を伺いご本人には入所されてからケアマネや職員が、ご本人の様子やお話を聞いて気が付いた事は皆で話し合いケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所見学の時から、見学だけではなく家族様のお話を聞いて、相談内容に当ホームでは対応しています。入所時からの様子を観察し本人の生活の変化の状況等をご家族に電話等でお知らせしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り本人と家族の要望に応えられる様に職員間では、ケア会議等で話し合いを行い対応している。又家族様には電話で今の状況を報告させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と、日々の暮らしの中で何気ない会話の中から共感し又話の中から、ご本人のニーズを聞きだし実践に繋げる事を心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にお便りを出したり、コロナの為面会は出来ないが必要な日用品等を持ってきて頂いたときは職員から毎日の様子をお伝したり電話等でお話をさせて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などは、お断りをさせて頂いておりましたが、コロナの感染の人数が少なくなった時はなるべくお会い出来る様に対応させて頂いていました。又お盆や正月にご家族様の家に行かれて、過ごすなどもされました。	通常の来訪での直接の面会が未だ難しい状況下であるが、家族との窓越しでの対面や電話や手紙での連絡を取り持つなど、つながりを継続できる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日体操やゲーム等を行い入居者様同士が、コミュニケーションを取れるように職員も関わりを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されて方で特養や病院に入られて、お亡くなりになられた方の御家族様からご連絡を頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話からセンター方式のB2に書き込み入居時の家族様からの話等から各々の得意だった事を参考に日々の生活の中で取り入れた対応を出来る様に職員で話し合いで実践できるように様になっている。	職員は利用者との触れ合いや関わりを多くし、日々の言動や状態から本人の思いや意向の把握に努めている。率直に希望を伝える利用者も多い。家族からも情報を得て、本人本位の最善となる暮らし方の検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族にセンター方式のB-3シートを渡してわかる所を書いて頂き入所後は担当職員がご本人との会話の中から紐解き記入しサービスに反映する様にしている。継続して半年に1度の見直しもやっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック(バイタル体温測定、水分量、排泄、入浴、食事、)更衣時の身体チェック、表情の変化等々様子が違う時等入居者様を観取し記録して送りやミーティングの時に話し合う。又コロナになってからは毎日3回体温とSPO2を測定している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医療、介護の意見をお聞きして毎月の会議でカンファレンスを行い担当職員がアセスメント、モニタリングシートを作り全職員で話し合い介護計画を見直しています。	毎月ケアカンファレンスを実施して利用者の変化を話し合い、担当職員がアセスメント・モニタリングシートを記載しサービス担当者会議に活かされ介護計画を作成している。本人にとっての課題やより良く暮らすための更なる焦点化に向け、センター方式のEシート活用の検討が進められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には日々の様子やご本人の言葉や行動を克明に記録し介護計画に沿ったサービスを行ったらケアプランの番号を記入しているいつもと変わった事があった時は職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の状況に応じて、職員、医療と話合った事は家族に提案し、ご家族からの希望に出来るだけ対応する様にしています。コロナ禍で面会を控えて頂いていますが電話やコロナが落ち着いた時期に15分程度の面会を行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携でホームへの協力を頂いている。今は出来ないが町内の方々や消防、民生委員などの協力が出来ている職員も町内の火災訓練などにも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の在宅診療の往診医は些細な事でも相談にのってくれ、家族様にも親切丁寧に市説明をしてくれる。緊急の時も関連病院への搬送の対応をさせて頂いています。	利用者全員が月に1度の協力医療機関の往診を受けている。歯科は必要時に往診が得られる体制である。他科診療は適宜家族の協力も得て受診支援を行っている。医療内容は「受診・往診ファイル」に個別に記録がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度グループ会社の訪問看護が来て健康チェックをしています、何か特変があった場合は訪問看護部の管理者からアドバイスが有り、内部研修等も当社の看護管理者が来て講習をしてくれている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	往診医に相談し連携病院に搬送して受け入れしてもらえています。コロナの為面会へ行く事が出来なかったが状態を電話で確認し、早期退院に向けて受け入れの準備をする様にしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に「重度化に伴う指針」をお渡しお伝えしています。往診医からの話があったら、ご家族と往診医、管理者で何度も話し合いを重ねご家族が納得され、職員も研修、話し合いを何度も行い看取りへ繋げています。	利用契約時に「重度化対応に関する指針」を説明し同意を得ている。医師の判断に基づき家族等の関係者と今後の対応を協議している。昨年度も看取り支援に尽力している。「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を用い学習会を実施する予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修や緊急時のマニュアルを作成し施設内に各階掲示し全職員に配布して周知している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回(日中)(夜間)の火災訓練、1回の風水害の避難訓練を行っている。今年はコロナで町内のお手伝いは無かったが毎年参加して頂いています。職員も年間の訓練に全員が参加出来る様にシフトを組んでいます。	令和3年11月に夜間想定、今年5月に日中想定の日災避難訓練を実施し、自然災害の訓練では昨年6月に地震、9月に風水害想定で行った。地域住民の参加は感染症の流行により停止し一部職員が見守りの住民役を担う模擬態勢が取られた。災害備蓄品を確保している。避難時の支援援助者名簿を整備している。		令和6年4月から義務化となる自然災害発生時における業務継続計画(BCP)の策定に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた対応(耳の遠い方は筆談など)と、名前等も、なれなれしくならない様に言葉使いも注意しています。	年長者として敬い誇りや人格を尊重しプライバシーを守るよう配慮している。個人記録や書類は人目に付かない場所で保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中での何気ない会話で希望や要望を把握し、個々の出来る出来ないを職員間で話し合いご本人に提案し出来る事を支援する様にしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の中で自分の家に居るように、自分の思い通りの生活を送れるように支援しています。職員間でもその様子を観察し次の支援に繋げる様に話合っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週2~3回の入浴と着替え、その方によっては自分で朝に服を選んだりお化粧をしたり、外出の時は日常着では無くおしゃれに気遣いし出かける様に支援します。			

グループホーム フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いを把握して献立を伝えたり食べたい物を聞いて提供しています。特に誕生日には好物を作ったり入居者がケーキ作りを手伝ったりしています。食事の準備や片付けも職員と一緒にします。	日頃から好みを聞き献立や調理に生かし提供している。利用者も可能な範囲で調理やおやつ作りに携っている。行事には生寿司を取り寄せたり、流しそうめんやバーベキューなど、食に変化をつけている。外出先でネギトロ丼、キノコ飯、好みの菓子を選んで食べる楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて食事の形態や量、塩分制限に対応しトロミや刻みで提供し、各々の状況に応じて水分量も提供しています。水分摂取が難しい方には果物やジュースや夏はアイスなどで対応したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアをして頂きます。職員は見守りし援助の必要な人には口腔ケアスポンジ等で支援をしています、訪問歯科医で治療をして頂いて指導を受けて対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に個々の水分量と排泄記録を記入し、個々の排泄時間等を把握し本人のタイミングで排泄出来る様に、職員がトイレへ誘導してなるべく失禁の無いように心掛けている。	利用者ごとの排泄のタイミングを見逃さず、尿路感染しないようパッドの交換も時間経過の確認を行い支援している。快便につながるよう食材以外に水分にも留意し、水分が摂りづらい利用者にはゼリーやシャーベットで水分補給が出来るよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の送りで排便確認を行い、自力排便が難しい方には訪問医と相談し下剤の調整をしています。3日以上になると訪問看護の時にお腹を見てもらい浣腸をしてもらう。毎朝の牛乳、繊維質食材の提供や体を動かせる方は体操等を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2～3回個々の状況やニーズに合わせて対応しています。	火水金土の入浴日に利用者ごとに湯を交換し、4名から5名が入浴している。日曜日もフリー日とし入浴可能である。入浴が苦手な利用者には「暖まりますよ」と優しく声をかけながらスムーズに入浴が出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良の時等は自室にて休んで頂きます。夜間は外の明かりが居室に入らない様に遮光カーテンを使用したり、その方のペースに合わせて入居宅での時間の過ごし方で入床まで過ごして頂いたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬を担当職員がセットしており、担当職員はその方の処方や薬の内容、薬の変更を把握する様に全職員が毎日の服薬を行い錠剤が呑めなくなって来ている方には粉錠にして貰いトロミ等で服薬して頂いています。薬の変更時効も連絡ノートで把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日各々が出来る事、「手伝うよ」「これは私がやるの」と話されてご自分の出来る事をやって頂いたり、日々計算やパズルなど自分がやりたい事をして頂いています。外出レクは行きたい所や食べたい物をお聞きして意向に沿う様にした外出をする様にしている。		

グループホーム フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜や近所のお庭を散歩に出かけています。おやつを買いに行ったりしています。	本人の意向を確認し、少人数の個別ドライブで百合が原公園、サーモンファクトリー、きのこ王国に出かけている。出先では食事や甘味を食べることも兼ね楽しみを増やしている。冬期の外出は通院が主である。季節の良い時期には近隣の散歩で花畑を見たり、周辺をのんびり歩いている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の要望により、お金はホームで管理をしています。日用品の購入やレクの時に使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族にも電話での御連絡をお願いし、ご家族の訪問時にご本人のムービーを見ていただいたり、家族からの手紙にはお返事を書けるように支援していますが、文字を書く事が出来ない方には、こちらから電話を掛けて話をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のリビングは一日3回の換気と、掃除を行いリビングの飾りは入居者様と職員が共同製作した物を飾っています。日中はテレビを点けばなしにせずにテレビを消してCDで音楽を聴いたりゆったりとした時間の工夫も行っています。日中のレク等も行っています。	共用空間は利用者が自由に暮らせて落ち着ける環境となるよう整えられている。希望のバズルや塗り絵なども利用者が自由に出し入れし活動している。事務所は利用者のもう一つのリビングになっており、ソファで新聞や本を読んだり、職員とマンツーマンで触れ合える空間である。2階廊下は歩行訓練にも活用している。エアコンや加湿器で空調を管理し居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状況や身体に合わせて席替えをしたり、固定ではなく、テレビを観る時ゲームをする時とその都度対応をしています。又廊下に一人で新聞を見たりと過ごせるスペースを作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物や馴染みの物家族の写真などをご家族が用意されたものをお部屋に置いて元の生活を大切に空間作りをご家族と協力し支援をしています。	備え付けの電動ベッドやクローゼット等がある部屋に、昔馴染みの品や趣味の手作り作品、ぬいぐるみ、化粧品、家族写真等が置かれ、転倒のリスクの無いよう配置している。帰宅の訴えがある利用者が自室に戻ると落ち着きを取り戻す場面があるなど、居心地よく安心して過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに、ひらがなでの表札を掲示してご本人が自分の居室とわかる様にしています。また転倒リスクの高い方にはセンサーマットで迅速に居室に駆けつける様にしている。トイレには表記している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム フレンドリィ

作成日：令和 4年 6月 22日

市町村受理日：令和 4年 7月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者家族等からの、コロナ禍で面会が出来ないため日頃の様子が知りたい等家族の希望に応える為の情報収集を行う事も大切である。	電話での日頃の様子をこちらから一方的に、お伝えするだけではなく家族様の意見をお聞きして取り組んで行く様に職員もレクの様子だけではなく、日頃の様子も画像でわかる様に残していく事も考えていきたい。	家族アンケートを行い、家族様からの要望を少しでも多く取り入れた生活を行うようにする。 又その様子をお便りで知らせる。	1年
2	35	○災害対策 火災や地震、水害等に、昼夜をとわず利用者が避難出来る方法を全職員が身につけると共に、地域との協力体制を築いている。	毎年火災訓練日中1回夜間1回風水害、地震各1回つつ訓練を行い、又全職員が一度は各訓練に参加する様にしている。今後も継続して行く様にする。 令和6年4月までのBCPの作成を行う。	令和6年4月に義務化となる自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を作成する。	2年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。